



工 化 時 報

第20号
(特集号)

目 次

新工化会会長あいさつ	P. 2~3
物質応用化学科主任あいさつ	P. 4
シリーズ OB からの大学への提言	P. 5~7
就職状況の昨今	P. 8
産学技術交流会(化学)雑感	P. 9
工化会事業報告	P. 10~11
会費納入者一覧	P. 12~13
平成15年度新任紹介	P. 14
クラス会・同窓会の報告	P. 14~17
工化会名簿発行中止のお知らせ	P. 17
学生編集委員のページ	P. 18~19
お知らせ	P. 20



表紙写真：
1号館建設写真

新工化会会長あいさつ

工化会会長 藤池 誠治

この度、部会長清永弘興氏が平成15年1月3日にご逝去され急遽私が総会までの部会長代理として任務を任せられました。前任の清永氏には謹んでお悔やみ申し上げます。5月の総会にて部会長として今年度の活動を行うことになりましたが身の引き締まる出発となりました。

さて、学校を取り巻く環境も多少経済に明るい光が見え隠れする中、多少好転のきざしも感じられる今日この頃ですが、イラク問題がいつも話題から離れず先行きの見通しが誰にも判断できない状況で、我々が過去に経験のない世界が広がっています。

昨年はNOx(廃ガス)規制の問題が東京、神奈川、千葉、埼玉の1都3県で10月末を期限として古い自動車(ディーゼル)が走れなくなりました。この排ガス規制の法律の施行は自動車メーカー、運送業界にとっては大変大きな事件であり、環境問題を抜きにしては考えられない事例の一つであります。これからは地球環境を損なわず社会に貢献出来る仕事、企業が大きく見直される時代となりました。まさしく化学技術の出番であります。

昨年11月21日第3回産学技術交流会(化学)2003年が開催されました。「バイオ&バイオミメティックスの化学と応用技術」と題し現在本学が取り組んでいる生体計測、遺伝子工学、生理活性分子、生体適合材料、バイオマスなどに関する研究成果を紹介したいと考え、新装の日本大学理工学部駿河台校舎1号館CSTホールにて開催いたしました。

基調講演には、京都大学大学院農学研究科教授であります大東肇氏をお招きして「機能性食品科学の最近の動向」ーガン予防食品因子を例としてーについて時代にマッチした大変興味のある格調高いご講演をまた活発な質疑応答にも対応していただきました。引き続き特別講演として今話題の会社(株)島津製作所に勤務している川畑慎一郎主任による「マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法の開発と生体計測への応用」の講演をノーベル賞受賞の田中さんとの研究仲間であることを含めて楽しいお話を聞かせていただきました。また、本学の研究発表も行われました。一般企業の多数の参加とパネル展示等も行われ産学連携の重要性が確認でき、また懇親会の場に於いても意見交換の活発な場となりました。物質応用化学科だけが独自で行っているこの産学交流もこれから本学全体の動きに発展し、日本大学理工学部部の認知をさらに高めれば、継続していく意義は大きなものと言えるでしょう。

これからも工化会が、益々その力を育み化学に関心のある学生の育成と大学各々の研究室の発展の為に少しでも貢献できる様努力したいと思っています。

静電容量型変位計・超音波リニアモータの輸入販売

Progress & Creativity

ピー アンド シー株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比須1丁目20番8号
(エビススバルビル5F)

電話 (03) 5793-1561 ファクシミリ (03) 5793-1562

昭和35年卒 代表取締役 安達 昭 郎

ポリオレフィン系コンパウンドの製造・販売

昭和化成工業株式会社

□本社・工場 〒348 8585
埼玉県羽生市小松台1-603-29
TEL 0485-61-5221 FAX 0485-61-5229

□技術・試験
TEL 0485-61-5225 FAX 0485-61-5228

昭和53年卒

代表取締役社長 池本 俊 一

□東京支店 〒101-0032
東京都千代田区岩本町3-3-2 アックス神田8F
TEL 03-5823-1301 FAX 03-5823-1304

□大阪支店 〒532-0011
大阪府大阪市淀川区西中島6-1-3 770新大阪第2c*#10F
TEL 06-6307-2727 FAX 06-6307-2748

□名古屋営業所 〒450-0002
愛知県名古屋市中村区名駅3-15-1 名古屋9'4北*#2号館
TEL 052-581-2211 FAX 052-581-2385

物質応用化学科主任あいさつ

ーグローバル化社会への挑戦と貢献ー



教授 秋久 俊博

21世紀が歩み始めた今、日本は産業構造の変化、少子高齢化、国民の生活要求の多様化と高度化など大きな社会システムの変革に直面しています。この競争と共生が増大する社会で、本学科は良き伝統を継承しつつ、変革に対応して教育・研究の質的向上を図り、より魅力のある学科を構築して行くという課題を背負っています。

少子化にともなう受験生減少と、これに対応した多様な入学者選抜により、入学時における学生間の基礎学力の格差が顕在化してきています。我々には、学生の学力レベルを一定以上に到達させ、卒業生の学力水準の「品質保証」を行う責務があります。そのためには、厳正な成績評価を行い、安易な卒業を抑止するのは当然ですが、学生が自主的に学ぶことを身につけさせ、問題解決能力を高めていく教育法の構築が必要です。さらに、国際的な化学技術者としての資質を保証できる人材を社会に送り出すために、JABEE等による評価への対応の検討を行うとともに、外国語によるコミュニケーション能力の育成（TOEFL、TOEIC等受験の奨励）が重要であります。

これからのグローバル化社会で活躍できる人材の育成とともに、大学には世界に貢献する研究成果の創出、社会との連携と社会への貢献という使命があります。このためには、まず、科研費や奨励研究費等の外部資金の積極的な導入により研究環境の整備・充実を促進し、質の高い研究成果の創出を図ることが重要です。また、長期の基礎研究や萌芽的研究に研究の重点を置いている大学が、社会情勢の変化やニーズに深い理解を持つ産業界と連携することにより、産学連携研究を推進して行くことが我々の社会貢献の一つの道と考えます。

シリーズ

OBからの大学への提言

今回は本学を卒業されて3年以上社会経験を積まれた方に「社会で必要とされる人材像」についてご意見を頂きました。

(93年卒学部卒・製造業)

私の入社した11年前は「人材は会社で育てる」という風潮だったように思いますが、最近では即戦力として高学歴者採用の傾向が強いです。大学院卒の方は専攻分野を極めている人(極めつつある人)なんだと思います。学部卒の方では自分で問題解決の方法を見つけられる人が欲しいとのこと。また、英語はできた方が良いと思います。英語の苦手な私でさえ(得意分野ありませんが...)、海外出張や関連会社の方とメールのやり取りで四苦八苦しています。これからは益々、英語は必須なのではないかと思えます。

在学中と就職後の心境の変化として私は、両親への感謝が挙げられます。定年まで一つの会社に勤めなかったにしても、一生何かしらして稼ぎ、養うというのは大変なことだと改めて思います。休日明け直前には会社へ行きたくない気持ちも湧きますが、不景気の中、仕事があるのはありがたいことだと思います。また、どんな仕事をするにしても、必ずついてくるのが人間関係だと思います。余程の天才でもない限り、一人でできることは限られていますから。学生時代は自然と性格の合う人、比較的似たような境遇の人(学歴・経済感覚など)が集まっていたように思います。仕事をする上ではそうはいかないところが、決定的に異なる点だと思います。

(99年大学院卒・製造業)

学生時代の勉強は単位取得が第一の目的で、就職活動のため、できればCよりAで評価してもらうことを重要と感じていた気がします。授業の内容を真に理解するというより、テストをクリアする為の勉強となっていました。また、勉強は受身で、授業の内容を色々な方向へ発展させて考えることはありませんでした。目先の卒業という目的だけではなく、先

産業廃棄物収集・運搬中間処理のスペシャリスト

株式
会社 **三栄興業**

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-302

60年卒 **鈴木義弘**

TEL 0489-55-1632 E-mail:sanei@pc-mind.co.jp

まで考えて物事に取り組んでいれば、社会人として、もっと自分の力が出せたのではないかと思います。

社会人は、自分が身につけた能力をどれだけ仕事で発揮できるかが問われていると思います。また、仕事に対して自分だけが納得していても上手く進まず、プレゼンテーションの場などで上手く人に伝え、理解し、納得してもらえるかも大切になります。学生時代は教えられてから動けば良かったことが、現在は、自らで考え、仕事を進めていかなければなりません。また、自分が進めた仕事への責任も問われます。学生の皆さんには、専門分野の勉強はもちろんですが、考える時間、学ぶ時間があるときに色々な知識を得て欲しいと思います。更に、これからはグローバル社会で活躍できる人材が求められています。英会話の不得意な私自身も海外メーカー対応などもあり、避けては通れないと実感しています。学生の皆さんには充実した学生生活を送って頂きたいと思います。皆さんの今後のご活躍を期待しています。

(94年大学院卒・建設業)

大学院を修了し、約10年が経ちました。私が考える社会で必要とされる人とは、「自分で考え、自分で判断できる能力」をもっている人ではないでしょうか。どのような仕事でも本当に必要なこと、何をいつ行い、何が重要かなど様々なことを判断する必要があります。私は、この「自分で考え、自分で判断できる能力」を学生のときから身に付けておけばと感じています。あたり前のことのように、実際に考え、判断することは日常の生活で行って来ていません。例えば、大学の実験では、ただ教科書の通りに作業し、数値を出すのみを行って来ました。ではどのようなことをする必要があったのでしょうか？実験をする場合、実験の目的は、どんな原理で測定しているのか？どの作業に注意が必要か？分析精度は？など実際に行う内容を理解し、重要なことを判断しながら行うことです。もう一度、授業や生活全てにおいてよく考え、判断しながら行動してみても如何でしょうか？そうすれば、今、本当にやらなければならないことが見つかる筈です。

(93年大学院卒・医療福祉教員)

私は平成5年3月に博士前期課程を修了して化学メーカーに就職後、5年間勤務の後退職。義肢装具士という医療技術者を目指して養成校で3年間修学しました。通常は臨床現場に出るものなのですが、ご縁があって卒業後すぐに養成校の教員職に就き、現在に至ります。工業化学科在学中は、あまり職業像の確立に対して自覚のない学生だったといえます。高校時代一番好きだった「化学」のさらに広い世界を見てみ

たいというのが、入学志望理由でした。幸いなことに、3年次の開講科目のうち、高分子の物理学という分野に興味をもち、4年次の卒業研究は高分子工学研究室に入室がかないました。ところが、難解な数式の意味するところの探索には熱中しましたが、実験がへたくそでした。また、物性論の中でも基礎的なテーマであったことから、研究目的への理解が不十分でした。ですから、大学院の2年間はたいへん苦しみました。在学中に学んだことは一見現在の職務には無関係と思われるかもしれませんが、そうでもないのです。私は養成校では基礎医学系の科目のうち「解剖学」の講義を担当しています。「構造と物性は不可分である」ことを解き明かそうとする研究で培われた精神は、身体の構造と機能の理解というかたちで、ささやかながら受け継がれているのです。

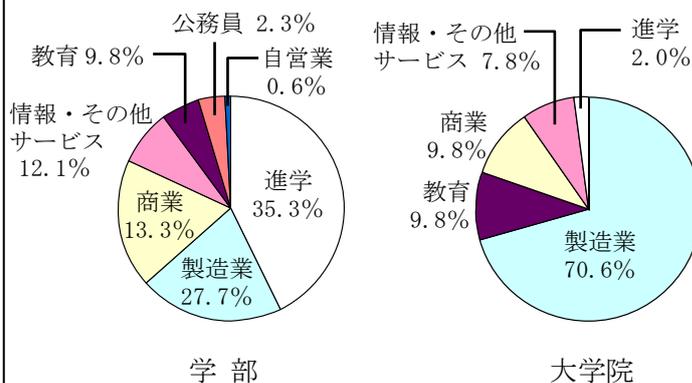
(00年大学院卒・製造業)

いま社会で必要とされる人材像としては、「目的意識を持って行動できる人」を求めていると思います。これは会社の目的(金儲け)に忠実に行動できる人を求めているのではなく、自分のやりたいことに向かってステップアップできる人を求めているということです。私は漠然と大学に通っていましたが、「自分に向いている仕事は何か、自分は社会に出て何をしたいのか」ということを具体的に考えておけばもっと充実した学生生活を送れたのではないかと思います。社会に出ると自分のために使える時間が少なくなります。ですから、学生の皆さんには時間が沢山あるうちに目的を明確にし、自分を磨いてほしいです。講義をしっかり受けることや研究に打ち込むことも重要ですが、友達や恋人と遊んだり、アルバイトや長期の旅行、留学、スポーツで体を鍛えたり、資格試験に挑戦することなども同様に必要だと思います。社会に出てからは、学力だけでなく、体力やコミュニケーション能力などその人の全てで評価されますから、貴重な大学生活を目的達成へのステップとして使ってほしいと思います。

カリキュラムに関して思うことは、実験と講義をうまく連動させてほしかったということです。化学はモノを扱いますから、講義だけ聴いてもイメージしにくく理解が困難です。理解をするには実験をしたり、その映像や装置を見せることが必要だと思います。また、講義の質を上げてほしいと思います。先生方は自分の担当外の講義の内容をご存じでしょうか? 基礎的なことから新しい話題まで、学生がより興味を持つような講義になるよう努力してほしいです。それが社会に必要とされる人材を送り出すことにもつながると思います。

就職状況の昨今

学生の就職状況は、かつての大学紛争で著しく変化し、しばらくは厳しい就職戦線での活動を余儀なくされたわけですが、バブル経済とでもいましょうか、求人先の多様化によって状況も好転しました。「この会社は給料がいいですか?」、「この会社の寮はきれいですか?」など、それまでの就職相談では考えられなかった学生さまさまの状況に変化して、就職指導はかえって難しい時期もありました。それがバブルが弾ける前後の平成3年頃までの状況だったと思います。しかし、世の中の不況が囁かれ始めた平成4年頃から就職戦線はまた厳しくなり、それに就職協定の廃止も加わって就職指導は以前よりも難しくなりました。その後、ここ数年前から求人の様式が変わってきて、自由応募が圧倒的に増えてきましたので、学生自身がインターネットで企業にエントリーするケースが多くなり、職種も多様化しつつあります。これに対応するため大学では就職コンサルタントによる指導、就職セミナーの開催など随時、学生の就職支援を行っています。



化粧品原料から製品まで 化粧品OEMメーカー

東色ピグメント株式会社

〒124-0012 東京都葛飾区立石6-37-14

昭和58年卒 代表取締役社長 **鳴原靖宏**

TEL03(3693)1050 FAX03(3693)1053

産学技術交流会（化学） 雑感



理工学研究所分析センター
管理責任者 磯崎 昭徳

平成15年10月頃、理工学部広報委員長から第3回交流会の内容を理工学部ホームページに掲載したいとの連絡が入り、本会リーフレット用カラープログラムをお渡しした。広報活動に多少お役に立てると同時に、第3回交流会の参加者増に色々対策を考えている主催者側として喜んだ次第です。この交流会は産学間の情報の交換、共同研究などが目的であります。学生に対する大学の就職対策の面も考えております。経済不況から抜け出せず、就職難の洗礼を受けている今、多くの学生は自ら総合情報サイトを利用して会社研究・エントリーまでしていますが、人気企業は書類選考でふるい落とす状況です。せっかく専門技術を身に付けた学生に対し、あらゆる機会をとらえて優良な中小企業などとの接点の場を作ること大切であると思えます。

第1回交流会(2001.11.16)は物質応用化学科 栗田公夫 教授(前・管理責任者)と澤口孝志 教授(現・交流会実行委員長)が中心となって企画され、「本学科の最新研究シーズおよび分析機器の基礎と応用など」を紹介しました。参加者83名(一般)と2件の共同研究の申し込みがあり、初回として成功裡に終了しました。

第2回交流会(2002.11.22)は「グリーン・サステナブル・ケミストリーの実用技術」をテーマに選び、基調講演と本学科の研究成果(3件)を発表すると同時に、ポスター発表(17件)などが行われました。参加者59名(一般)と、企業から10件以上の共同研究などが実施されました。

第3回交流会(2003.11.21)は「バイオ&バイオミメティックの化学と応用技術」のテーマでした(内容については本工化時報2~3p, 工化会会長 記)。ポスター発表(21件)と共に新たに企業の展示(4件)の場を作り好評でした。参加者50名(一般)でありましたが、技術相談や共同研究の問い合わせが来ております。

交流会の参加者数(一般)が減少気味ですが、工化会のメンバー以外の参加者を増やす方策や金曜日に設定する場合、企業などのご理解を更に深めることが必要であろう。理工学部校友会会長 安達昭郎氏、工化会会長 藤池誠治氏ほかをメンバーに加えた交流会実行WGでは、第4回(2004年)を開催する方向で計画されています。物質応用化学科共催であることから教室でさらに検討していただくことになります。この交流会は多くの学会などから協力していただいておりますが、とくに理工学部校友会工業化学部会(工化会)の後援であり、毎回5万円の援助に対し感謝申し上げる次第です。ご意見などがありましたら下記にご連絡下さい。

E-mail : sangaku@chem.cst.nihon-u.ac.jp(事務局 石黒香織)

平成15年度工化会事業報告

平成15年度工化会通常総会は、平成15年4月に落成した駿河台校舎「新生1号館」の2階中会議室において、平成15年5月31日(土)午後4時より、役員・会員59名の出席を得て開催された。議長には藤池誠治・本会副会長を選出し、各委員会の平成14年度事業報告及び会計報告、並びに平成15年度事業計画及び会計予算案の審議を行い承認された。本総会では、本会会長の清永弘興氏が平成15年1月に急逝されたため、新会長として藤池誠治氏(昭和41年卒)を選出した。これにともない、新副会長には深澤豊史氏(昭和52年卒)を推薦し承認を得た。また、平成15年度理工学部校友会正会員表彰候補者として、本会の運営並びに発展に長年貢献された和井内徹・本学名誉教授を推薦した。さらに、理工学部校友会常任幹事に門井守夫氏を推薦した。総会終了後の恒例の懇親会は、1号館2階カフェテリアにおいて午後5時から開催された。懇親会は53名の出席を得、大田善三・元本会会長に乾杯の発声を頂いたのち、和やかな雰囲気で行われ、午後7時に閉会となった。

本会は、事業活動の一環として会報「工化時報」を毎年発行しており、これは卒業生、在学生と物質応用化学科教室との情報交流の場として、また、本会活動を会員に周知頂く媒体として大きな役割を担っている。しかし近年、この工化時報の発行経費が本会の会計を圧迫してきており、本年度総会において問題点として提起された。これを受け、数回の学内役員会を開催し検討を重ね、次号以降の工化時報は本学科ウェブサイト上の工化会ホームページにも掲載することとし、現状の印刷・郵送部数を削減する案を作成した。

平成15年度工化会予算は収入が812万円(内訳：前期繰越金654万円、校友会割戻金40万円、会費100万円、その他18万円)である。一方、支出は庶務費64万円、会員費54万円、会報費330万円(工化時報印刷・郵送費)の計448万を予定している。全収入から前期繰越金を引いた本年度の予想収

入は158万円である。これに対して支出は448万円であるから、本年度は繰越金を290万円と大幅に取り崩しての運営となり、抜本的な対策が望まれる。なお、「工化時報」の本会ホームページ上での掲載は解決策の一つとなり得る。

平成15年度における会員諸氏による会費の納入状況(平成14年12月21日～平成16年2月6日)は、納入者数181名(185件)、納入金額は54万円となっている。納入者には、複数年度分の会費を納入された方や、寄付をお寄せ頂いている方も多数おられるが、これらの方々へも含め、御礼は本号の会費納入者氏名一覧の掲載を持って換えさせて頂きたい。本年度の会費収入は、目標額並びに昨年度実績のほぼ半分に留まっている。本会の財政の健全化と今後の発展を図るためには、一人でも多くの会員諸氏に本会の現状をご理解頂き、会費等の納入(正会員年会費:1,000円;本号綴込み振込用紙をご利用下さい)による財政的支援を頂けるよう切望している。

ここで、訃報をお伝えします。本会の役員並びに相談役として、長年本会の発展に貢献された亀ヶ森進氏(専門部工科昭和17年9月卒)が平成15年11月18日にご逝去されました。本会では、会長名で生花を献花いたしました。ここに改めて亀ヶ森氏のご冥福をお祈り致す次第です。

最後に、平成15年度の工化会主催行事並びに後援行事の概要を記載する:①平成15年5月17日(土)14:00～16:00 第1回役員会;②5月31日(土)16:00～16:45 通常総会・懇親会;③7月18日(金)10:00～11:00 第2回(学内)役員会;④8月3日(日)9:30～16:00 オープンキャンパス'03(船橋校舎);⑤10月3日(金)17:00～19:50 第3回(学内)役員会;⑥10月31日(金)16:30～18:00 第4回(学内)役員会;⑦11月21日(金)13:00～18:10 第3回産学技術交流会;⑧平成16年2月18日(水)16:00～17:30 工化会後援特別講義「電子材料の研究動向」(日産化学工業㈱ 電子材料研究所長 袋裕善氏)

以上 庶務委員 秋久 俊博

会費納入者名簿

昭和16年卒	昭和26年卒	寺島 賢治	梶原 康敬
塚原 耕一	稲垣 正	古川 新	河合 哲次
松田 稔	植村 治	昭和31年卒	倉形 邦英
和田守 哲治	清水 輝夫	川口 國雄	黒木 妙子
昭和17年卒	鈴木 信夫	村山 政敏	米田 修一
西 宗雄	昭和27年卒	昭和32年卒	野島 秀次郎
昭和19年卒	石田 宏	園田 勲	渡邊 高章
菅 秀夫	市川 次良	坪井 聰介	丸山 長資
日暮 忠弘	入倉 芳郎	村松 勉	村川 信子
昭和20年卒	植松 貢	昭和33年卒	昭和36年卒
畦元 直三郎	柏木 治彦	伊藤 明	小笠原 和子
磯 基道	長岡 清	奥野 士郎	越智 健二
伊藤 晃	宮川 継男	加賀 勘之助	栗村 規雄
太田 善造	和井内 徹	小林 脩一	小串 照宗
風間 匡英	昭和28年卒	齋藤 二郎	鈴木 善治郎
浜田 勝伸	岩崎 晃	高木 三郎	炭田 幸宏
昭和21年卒	鈴木 一成	三浦 修	中田 彰弘
杉山 忠次	瀬戸 享	大井 壽	昭和37年卒
松本 健次	福島 敏郎	昭和34年卒	磯崎 昭徳
昭和22年卒	宮尾 利政	池田 実	倉澤 守雄
稲垣 義雄	吉川 和夫	河野 寿夫	小林 昭朗
昭和23年卒	昭和29年卒	栗原 孝夫	佐々木 賢明
伊東 達郎	加藤 浩一郎	児玉 五男	庄司 翠
昭和24年卒	米山 廣保	玉置 憲三	杉崎 秀夫
加藤 泰正	坂本 和法	貫井 徳蔵	田村 英雄
昭和25年卒	昭和30年卒	宮 道夫	本田 睦治
尾高 陽一	奥谷 忠雄	横倉 隆康	昭和38年卒
古舘 和夫	植竹 和也	昭和35年卒	大石 哲
鈴木 正慶	笠間 三男	安達 昭郎	酒井 誠一

白石 益郎	海上 幸三	関口 真理	平成元年卒
杉田 松生	昭和44年卒	昭和52年卒	磯崎 誠也
長嶋 潜	関口 信夫	深澤 豊史	栗田 雅子
藤野 裕	花井 秀之	昭和53年卒	平成3年卒
昭和39年卒	横山 二郎	深津 誠	高田 昌子
亀村 轟	昭和45年卒	昭和54年卒	村原 伸
高松 武生	大木 実	小山 真樹	平成4年卒
竹石 肇	滝戸 俊夫	杉田 健一	藤池 一誠
寺山 洋子	土田 久	鈴木 昌三	宮崎 裕子
昭和40年卒	永島 一男	森 勝彦	平成5年卒
上條 陽一郎	昭和46年卒	森川 昌	岩渕 弘晃
西脇 鉄雄	島津 学	諸原 浩	平成6年卒
廣田 才之	昭和47年卒	矢野 泰弘	加藤 真始
三谷 治郎	森 伸一	昭和57年卒	小船 亜紀子
山岡 景仁	昭和48年卒	伊藤 和宏	遠山 岳史
昭和41年卒	秋久 俊博	佐藤 慎一	平成7年卒
上林 直也	岩渕 良志喜	野澤 昌史	岡田 賢識
楠 勝行	内田 正雄	昭和58年卒	平成9年卒
重田 勲次	川津 義人	栗原 清文	浮谷 基彦
奈倉 正宣	坂口 信昭	昭和59年卒	林 秀憲
藤池 誠治	関口 優紀	清水 繁	平成12年卒
藤池 眩子	古川 雅雄	昭和61年卒	伊藤 穂高
真下 清	指田 紀男	小嶋 芳行	平成13年卒
丸山 武紀	渡辺 明典	萩原 俊紀	小島 正浩
矢野 鎮雄	昭和49年卒	昭和62年卒	以上
芳崎 弘一郎	久保 隆	加藤 慎次郎	
昭和42年卒	小島 元昭	栗田 直人	181名
佐藤 馨	澤口 孝志	昭和63年卒	(185件)
昭和43年卒	昭和50年卒	中西 剛	
新井 浩一	上田 賢二	森田 孝節	

平成15年度 新任紹介

伊掛浩輝先生
高分子工学研究室 助手



はじめまして、平成15年度より高分子工学研究室で助手を務めます伊掛と申します。平成6年度に理工学部に入學以来、平成14年度の博士後期課程を修了するまでの9年間、理工学部ならびに工業化学科の諸先生には大変お世話になりました。このご恩を後進の育成として、少しでも貢献できましたらと思ひまして、学生から教員になりましたが、引き続きお世話になっております。現在の私の研究ですが、後期課程に進学して以来継続して、有機高分子/無機ハイブリッド材料の光学特性と材料の微細構造を調べております。透明でありながら紫外線は通さない材料など、ナノメートルレベルで構造が制御された材料だからこそ可能になった特性がこれまでも多々発見され、ナノサイエンスとして現在もっとも注目される分野の一つです。これまで先輩方が理工学部で築いてきた伝統を継承しつつ、さらに発展させていけますよう精進して参りたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

クラス会・同窓会の報告**31年卒 日大工業化学同期会**

日大の工業化学を卒業して48年間、昭和の激動の時代を生きてきた企業戦士たちが、一同に会して喜びを分かち合えたひとときであった。

2年に1回開催する「昭和31年卒同期会」を平成15年9月19日(金)に東京ガーデンパレスで52名という多くの参加者を得て開催することができた。皆、同期会の開催を心待ちにしていたようで大変有意義な会になった。

初老と言うより古稀の歳になり大分老け込んだ人もいれば、まだまだ若々しく青春を謳歌しているものもいて、非常

に楽しく情報交換をすることが出来た。

参加者は、和気あいあいと歓談することが出来たようで、若きエンジニア時代に戻って、今までの職歴や仕事上の苦労話や現在の近況などを話し合っていた。

現役でバリバリ働いている人は、仕事に対する責任感からかとても若々しく見えたのはひがみだろうか、現役をとうに退き悠々自適に過ごせる筈が、病気のこと、家のこと、つれあいのこと、子供のこと、色々なしがらみで思うように行かない現状を嘆く者、人生の縮図を見たような気がする。会の最後に、次回の案内やら1泊旅行の案内などで、会はますます盛り上がった。

1泊旅行は、箱根温泉で開催する予定です。ご案内を差し上げますので、その節は宜しくお願いします。

終わりにになりましたが、皆様の健康とご多幸をお祈りいたします。



(文責：杉浦 允)

39年卒 2年振りの同期会に60名が参集

工化時報18号に報告した通り、39年卒が還暦を通過したのを機に平成13年12月、25年振りに同期会が開かれたが、その折の約束通り再開第2回同期会が平成15年12月6日八重洲富士屋ホテルで60名の出席を得て開かれた。

2年振りの再会と前回出席できなかった懐かしい顔とが入り混じって、始めはやや硬かった表情も、池村先生を始め、実験のご指導を頂いた板橋先生、平井先生、植竹先生、中沢先生、市川先生を交えて昔話をするうちに、白衣とサンダル

で闊歩した2号館の実験室の熱さと臭いが記憶に蘇り、熱き想いが湧き上がって大いに盛り上がった。

この2年で3人の同期生が亡くなったのがさびしいが、先生方から健康の維持のお話をお聞きして、2年後に元気で再開できる様に節制することを肝に銘じ、若きエンジニアを歌って散会した。(山崎 彰 記)



なお、今回も39年卒同期会より工化会に4万円の寄付を頂きました。(工化会事務局より)

高分子合成研究室卒業生の皆様 “平成16年度同友会開催のお知らせ”

高分子合成研究室は1972年に設立されてから2002年までに670名を越える卒業生を送り出しており、本年34期目の卒業研究生を迎えた。一昨年リニューアルされた同友会も第2回目は2003年11月1日(土)虎ノ門パストラルに103名の参加があり大盛況であった。豊富な人材ネットワークを気軽に活用できるサロン風産学連携拠点として益々重要視されはじめている。今年の活動としては企業と学生を繋げる就職懇談会を実施する。本会は、研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願っている。興味ある方は研究室(矢野 yano : 03-3259-0799 ; 澤口 sawaguti : -0819 ; 萩原 hagiwara :



-0433 ; ****@chem.cst.nihon-u.ac.jp)にご一報を！**第3回**
は2004年11月6日(土)日本大学理工学部1号館2階カフ
ェテラスにて開催される。

(同友会役員 矢野彰一郎会長、津野岳彦、関口優紀および
澤口孝志副会長、木村文紀幹事長、小笠原守人および鳴原靖
宏会計、中村信夫および渡部武則監事)

第13回 $\Sigma\alpha\omega$ 総会開催される

平成15年11月29日午後4時より、理工学部駿河台校舎1
号館 CST ホールにて $\Sigma\alpha\omega$ 総会が会員・学生・夫人・子供、
約120人の参加を得て、盛大に開催された。 $\Sigma\alpha\omega$ 会は旧秋
田研、和井内研、資源利用化学研究室の卒業生と1年以上研究
室に籍をおいた人達から成る40年以上の歴史を持つ会である。
当日は和井内 徹先生をはじめとして各界で活躍している人達
が参集し、総会后カフェテリアでの懇親会で旧交を暖めた。

工化会名簿発行中止のお知らせ

昨年の工化時報において、新しい工化会名簿(CD-ROM版)
発行のご案内をさせていただきましたが、当分の間発行を見
合わせる事が工化会総会において決定されました。会員の
皆様方にはご迷惑をおかけしますが、昨今の個人情報管理の
問題や理工学部校友会の財政状況などの事情からやむを得
ないものと判断いたしました。

なお、卒業年次別名簿のプリントサービスは行う予定で現
在準備中ですので、ご希望の方はお問い合わせください。

(会員委員会委員長 滝戸 俊夫)

本学名誉教授 内海 喩 先生におかれましては平成
15年3月15日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を
表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

本学科講師 柏原 剛 先生におかれましては平成15
年1月17日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、
ご冥福をお祈り申し上げます。

学生編集委員のページ

常に「今の若い者は・・・」と言われるように、世代によって価値観や常識が異なります。そこで、歴代のOBの方々をお招きして座談会を行い、当学科の今昔からあるべき将来像を考えてみました。

出席者：和井内徹先生、矢野彰一郎先生、深澤豊史氏、森田孝節先生、伊掛浩輝先生、箕島麻子(M2)、平田清美、八巻志帆(以上4年)、北谷戸尚、岸野雅也、高木裕輔(以上3年)、小倉洋介(2年)

司 会：平野勝巳先生

平野：皆さん、本日はお忙しい中お集まりいただき、有難うございます。はじめに、当学科の昔を振り返ってみたいと思いますが、OBの方々いかがでしょうか？

和井内：昔は今ほど専門科目が多くなく、一般教養の授業が多かった。哲学書を持ち歩く化学科の学生もいたね。ただし実験中心で、社会の即戦力となる学生を育てようとする思想は今と変わらないよ。

矢野：昔の学生は自分の興味があることは徹底的に勉強したが、今の学生は受身になったね。昔は学生同士で勉強会を行い、わからない部分について先生を無理やり連れて来て講義して頂いたりしたよ。今の学生はとりあえず授業に出るが、ちゃんと聞いているかどうかわからない。

和井内：昔は質問攻めに遭うと帰れなくなるから、先生がこっそり逃げ出した(笑)。

平野：私の学生時代は、ご挨拶と称して先生の家まで押しかけました。先生が不在でも奥様がおられたら、上がりこんでご馳走を頂いたり(笑)。

森田：私の学生時代にはそんなことはありませんでしたね。学生数が増えて、教員と学生の関係が変化したのだと思います。

伊掛：私の学生時代はさらに学生間関係が希薄になり、小グループが点在していました。

平野：今はいかがでしょう？

平田：学生と先生、学生同士が議論することが少ないので、学生に捕まって先生が帰れなくなることは滅多にないですね。

八巻：学生は別に先生との関係を嫌がっているわけではないですよ。ただし、学生の方から先生に働きかけることはないですね。

矢野：講義では、どうすれば学生が勉強するかを考え、わざと脱線して学生の興味を引く内容を加えたりしている。

箕島：今は、大学は就職資格みたいなもので、専門的な知見を教わる場所になっている部分もあると思います。

小倉：僕は有機系に興味があり、将来はその分野に進みたいと思っています。しかし、今は一般教養や無機系など、あまり必要性を感じない授業も受けなければならないことに疑問を感じます。

深澤：社会に出たら、自分の興味がある限られた分野だけの研究を行うことは出来ないよ。また、幅広い知見が求められるため、今は興味がない分野の勉強も決して無駄にならないよ。

平野：いろいろな問題が出てきましたね(笑)。それでは、今後当学科はどうあるべきでしょうか？

矢野：学生は人間として成長するために、大学生活を通して哲学を学んでもらいたいね。自ら動いているいろいろなことを経験し、自分を創り込んで欲しい。

深澤：昔の学生は先生の生き様を見て育った。今後先生方は学問だけではなく、人生の師匠になって頂きたい。

和井内：今求められている大学像は、どちらかと言えば専門学校校的だ。即戦力を磨く教育も大切だが、日本大学のような総合大学にしか出来ないこと、すなわち学生に幅広い教養を身につけさせ、自分の知らない世界に興味を持って飛び込ませる教育も大切にして頂きたい。

平野：社会に出た諸先輩の意見を聞きながら、教員と学生が積極的に協力し、オリジナルの学科を作る必要があると言うことですね、難しいな(笑)。

本日は、長時間貴重なお話を頂き、有難うございました。

2時間にも及ぶ座談会では、紙面の都合上掲載出来なかった話題も噴出し、大変盛り上がりました。用意したテープが途中までしか録音できなかったため、ここには前半部分が多く掲載されています。今時の学生も教員も真面目だが、熱くない。今も自ら学生を誘う奇特的な？先生がいますが、皆がもっと仲間意識を持ち、もっと母校を愛そうと、最後は体育会系のノリになりました。

普段授業を受けている先生方が案外お若く？、熱い思いを抱いておられることを知りました。学生の方もいろいろな思いが溜まっており、機会が与えられれば結構話せることもわかりました。お互い遠慮せずにアプローチしてみれば、時代によってそれほど価値観や常識が変わらないことに気付くと思います。そうすれば、自分をもっと豊かに出来るとの結論に達しました。

OBの方々には、大変身近に感じさせる優しいお話を頂き、深謝いたします。

(学生編集委員)

工化時報第21号発行について

工化会事業報告にもありますように、工化会「工化時報」の発行並びに全会員への発送が工化会の財政を圧迫させています。このため、今後工化会の情報等につきましては基本的にホームページにてお知らせすることとなります。また引き続き工化時報の発送は工化会の会費をお支払いいただいている方や同窓会などでご入り用の部数をお知らせ願えれば発送する方法に変更させていただきます。なお、工化時報第20号からは物質応用化学科ホームページ中の「工化会」のボタンをクリックすることで見るすることができます。

《物質応用化学科ホームページ》

<http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>

お 知 ら せ

平成16年度の行事予定

5/29(土) 工化会総会

7/24(土) 一日体験化学教室

8/1(日) オープンキャンパス

連絡先

- ・工化会及び会費に関する問合せ→庶務(秋久 TEL:03-3259-0806)
- ・住所変更に関する問合せ→会員(滝戸 TEL:03-3259-0800)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(澤口 TEL:03-3259-0819, FAX:03-3293-7572, E-mail:jihou@chem.cst.nihon-u.ac.jp)

広 告 募 集

工化時報では会社広告及びクラス会・同窓会報告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲 載 料 1 年 : 10,000円

発 行 所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

◎伊藤和雄, 永島一男, 小川 誠, 橋本徳子, 澤口孝志,
石黒香織, 谷川 実, 遠山岳史, 平野勝巳, 森田孝節

学生編集委員

M2 蓑島麻子

4年 平田清美, 洞口由香, 八巻志帆

3年 飯島千奈美, 大貫将司, 海東淳子, 岸野雅也, 北谷戸尚,
小菅将彦, 桜井祐輔, 鈴木健太, 高木裕輔

2年 井上洋明, 上原麻美, 小倉洋介, 加藤里香, 柴田洋一郎,
廣瀬達也, 富樫恭輔, 三浦義之